

登山

題字 七浜名一雄

第 15 号 昭和53年 7 月 15 日
発行者 群馬県山岳連盟
〒371 群馬県前橋市大手町 1-1-1
TEL (0272) 23-1111 内線 519-520
群馬県観光課内
編集者 群馬県山岳連盟編集委員会
責任者 川辺柳一
印刷所 (株) 高橋印刷
定価 1部 50円



ヒマラヤ 登山実行委員長 登山隊総指揮 浜名一雄

群馬県連内に海外登山研究会が発足して数年の間、調査研究を続けていた若者達は、当然の帰結としてヒマラヤ山系に眼を向けたのであった。

こうした中で、昨年ダウラギリ主峰中最長の南東稜からアタックする計画が立案され、機関決定となったのである。

隊長は田中成幸君で、その体験と重厚慎重な人柄が認めるところであり、隊員の信望を一身に集めているので、完登が期待されているのである。

隊員十八名は何れも県下各山岳会のベテラン中から選ばれた気力の若者達であるから、その体力、気力共に秀れたものを持ち、隊長を中心とする和と結束には、いささかの不安もないと確信しているのである。

然らずら登山とは容易ならざる行動であることは衆知の事実である。里山に若菜をつむのとは異り、その高さにおいて、大きさにおいて想像を絶するものがある。先ず個人が如何に大事であるかは、基本的な条件であり、更に気力と体力、経験と技術、装備と用具、体調の整備訓練等容易でない。

次にチーム編成の要件がある。隊長は勿論隊員と共に、相互責任を負はねばならない。そのことはチームの和を左右する重要な内容を持っている。更に団体としての食糧と装備には細心の注意を払って整えねばならないことは当然であり、輸送の万全をも期さねばならない。その為には全員集合して団体行動の打合せを中心に、度々話合の機会を持たねばならないのである。

こうした意味から、今隊員は各自に或は集団で、体調を練り、心をくくっているのである。それは責任と夢への努力なのである。今更改めてふれることでもあるまいが、ヒマラヤ山系には八千メートルの山が十四峰あり、そのうち九峰がネパール国内にある。七千メートルの山は数本あると言ひ。他大陸には一山もない。南米のアコンカグワが最高となつておるが、これとて六千九百メートルである。

吾が群馬隊が挑むダウラギリ主峰は別表に見るが如く、世界第六位の山であり、ネパール国内では第五位の山である。初登頂はスイス隊であるが飛行機を使つておりアルゼンチン隊は稜線をダイナマイト爆破までしたが敗退している。如何に登頂のむずかしい山であるかを物語っているのである。

このような登山史から見ても、吾が隊としても容易であるまい、その苦勞が眼に見えるようである。

私は安全に無事故で全員が十一月笑顔を見せられることを念願しているのである。これが私の祈りである。

登山隊に寄せられた各界代表の言葉

上毛新聞社による、後援資金募集広告キャンペーンとして、上毛新聞に掲載された、県内各界を代表する、後援者の方達の登山隊に寄せられた言葉をお知らせします。

スポーツ県での壮挙を

群馬県知事 清水一郎

このたびのヒマラヤ・ダウラギリI峰登山は、群馬県山岳連盟がかねてから総力をあけて計画を進めてきた壮挙であります。

ヒマラヤ登山は、世界の山岳界はいうに及ばず、わが国の登山家の最大の目標として、すでに数多くの登山が試みられてきました。

岳人が夢に描いた挑戦

上毛新聞社長 佐島俊一

世界の巨峰、ヒマラヤのダウラギリI峰への挑戦、これこそ世界の岳人が夢にまで描いた壮挙だと思ひます。

山名	高さ	高さの順位	初登頂年月	登頂順位	隊名
アンナブルナ	8091	10	1950-6	1	フランス
エヴェレスト	8848	1	1953-5	2	イギリス
チョー・オ・ユー	8153	8	1954-10	⑤ 3	オーストリア
マカル	8475	5	1955-5	⑥ 4	フランス
カンチュンジュンガ	8598	3	1955-5	⑦ 5	イギリス
マナスル	8156	7	1956-5	⑧ 6	日本
ローツェ	8501	4	1956-5	⑨ 7	スイス
ダウラギリ	8167	6	1960-5	⑬ 8	スイス
ゴサインタン	8013	14	1964-5	⑭ 9	中国

山岳史に輝かしい足跡

群馬県教育長 山川武正

このたび、群馬県山岳連盟が総力をあけて挑戦する世界の巨峰ダウラギリI峰登頂計画がいよいよ実行されるにあたり、心から激励の言葉を贈るものであります。

御承知のとおり、登山はきびしい自然との闘いであると同時に己との闘いであり、また、高度の近代科学と優れた登山技術が要求されるものであります。

今回の壮挙に参加される隊員諸氏は、いずれも群馬県連の中堅であり、全国的にも優れた岳人であります。

どうか、日ごろ鍛錬した高度な技術と不屈の精神を遺憾なく発揮し、山岳界の歴史に輝かしい足跡をのこして下さるよう期待するとともに皆さんが全員無事に帰郷されることを祈念して激励のことばといたします。

嶺呂のいわれ

嶺呂とは、万葉集の中に出てくる言葉で、嶺は、山々・峰々の意味で、呂は親愛・感動の念をこめて使う接尾語です。万葉集、上毛野国の歌の中に、「久呂保の嶺呂」(赤城山)とか、「伊香保の嶺呂」(榛名山)などという風に使用されており、群馬県連の会報の名にふさわしいものと思ひます。命名者は浜名会長です。

久呂保の嶺呂は赤城山のことで、黒々とした山頂付近の針葉樹が遠望されるところから、また伊香保の嶺呂は、いかつい大きな山々の意で、ホは高くそびえている様子を表わし、いずれも麗の人々が親愛をこめて呼んでいたようです。

岳連行事予定

七月	理事会	二日
八月	尾瀬美化運動	三日
九月	救助隊訓練	三日
読日講習会	読日講習会	十日
講習十月中旬	講習十月中旬	中旬
七月	谷川岳山開き	二日
救助隊訓練	救助隊訓練	二日
救急法講習会	救急法講習会	九日
全国遭対協議会(高山)	全国遭対協議会(高山)	十一・十二日
国体ブロック予選(茨城)	国体ブロック予選(茨城)	十五・十六日
(成年女子・少年男子・少年女子組)	(成年女子・少年男子・少年女子組)	会報発行(第一五号)
ヒマラヤ登山隊先発二日	ヒマラヤ登山隊先発二日	本隊二九日

58国体にむけて

国体部

岳連内に国体部が設けられてから早や二年が経過しました。この間、選手の選考、審判員研修会への出席、競技規則の研究等すすめてきましたが、開催基準にもとづいた開催候補地の検討も行って参りました。勿論、これを引き受けてくれる町村がなければ話になりませんが国体部会ではそのようなことは別に国体部会の希望地を県の開発計画なども検討した上で(具体的には未だ発表の段階ではないので詳しく申し上げられませんが)一応地図上で線引きは終了しました。

開催基準要項から申しますと、競技場の申請は、競技コース、華當地が所在する市町村長と岳連会長が連署の上で日山協会長に申請書を提出しなければならず、それも開催年度の四年前、即ち昭和五十四年三月一日から三月三十一日までの間に提出しなければならぬのです。そして、競技場は四年前に内定し、三年前に決定しなければならぬことに規定されております。引き受けてくれる市町村が何処になるのか全く分りませんが、これは極めて高度な政治的折衝に待つばかりなわけで、国体部会では、更に異った山城の研究もはじめております。また、調査のための予算がつけば、何時でもコース調査できる態勢に入っております。

ここで、施設認定規則の一部を紹介しましょう。ご存知のように国体競技は縦走、登攀、踏査の三種目の競技について競われま

〇縦走登山競技場の基準
一日のコースの高度差は、五百メートル以上とする、ただし、この基準に満たない場合であっても会場地の特性により決定することができる。

〇踏査登山競技場の基準
競技場は確認地点十ヶ所を経由するコースで、目的地までの距離が八キロメートル以上十五キロメートル以内とする。

〇競技コースは一日の行動時間を原則として十時間以内とする。

〇華當地は、指定キャンプ地または公共施設を利用する。右以外の場合は安全で衛生的な場所を選定する。華當地は参加チームにつき十平方メートル以上の広さに決めら

〇上水道以外の水を飲料水として使用する場合は、事前に水質検査を行い、保健所の許可を得たもの。便所は男女別に設け、数量は十人につき一つの割合とする。というようにたくさんしりばがかけられております。また、最小限六十数名の団が行動しなければならず、この条件に合致した山城を探さなければならないのです。これに諸条件と輸送の問題もあります。が、どうか岳連の皆さんもこの基準に沿う山城や情報がありましたら国体部会へお知らせ下さい。

国体部会では次の役務分担を決め活動しております。

昭和三十三年度群馬県民体育大会二部(山岳競技国体県予選会)報告

本年度の国体県予選会は、六月十日・十一日の二日間に行われ、谷川岳において行われ、成年男女少年男女の四チームの代表選手が内定した。

競技は、体力・歩行技術・幕営生活技術のほか全装備により二万五千分の一地図を用いての現在位置の確認や天気図の作成、ペーパーテスト等について行ったが、日程の都合から岩登り競技は省略された。

なお、成年女子および少年男子少年女子については、七月十五日十六日の二日間、茨城県日立市において行われる関東地区の子選に出場する。御健闘を期待したい。選考結果は次のとおり。

成年男子

相談役	赤石 春親(桐生)
部長	石井謙一郎(伊勢崎)
総務	太田 忠行(独峰)
審判養成	榎田 正也(高体連)
選手強化	榎井 進(太田)
村上 泰賢(高体連)	高橋啓太郎(カシマ)
水野金太郎(沼田)	清水高体連
大沢 清高(体連)	阿久沢 広登(高)
阿久沢 広登(高)	阿久沢 広登(高)

少年男子

監督	女屋 等志(ミヤマ)
選手	狩野 恵子(沼田)
選手	森下 緑桐(生)
選手	木村 文江(桐生)
選手	岡安 茂能(伊東)
選手	長沼 美明(伊工)
選手	多賀谷一成(伊工)
選手	丸橋 豊伊(東)
監督	山田 完治(中高)
選手	後園みゆき(渋谷)
選手	湯浅真由美(渋谷)
選手	原田 朱美(前市女)

国体審判員研修会報告

第二〇回全日本登山体育大会予報

国体部会では、五十五年からの得点種目への移行、五十八年国体開催に備え、今回初の試みとして六月十日・十一日の二日間に行われ、国体選手予選会とから、谷川岳において、国体審判員研修会を行った。日山協審判員規程によれば審判員は指導員の有資格者でなければならず、受講生はほとんど二種および三種の指導員であった。講師には国体部長の太田忠行氏があたり、山岳競技規則、開催基準要項、審判員規程、採点要項等の座学と採点の実技が行われた。また当日は県国体準備室から中村参事、丸山指導主事も見え、岳連からは赤石副会長、石井理事長も出席され熱心な研修、討議がかわされ、多大な成果をおさめた。

受講生は二十九名であった。

53年度地区別審判員研修会について

日山協公認指導員を対象に、国体山岳競技の審査・運営に当る審判員養成のため、ブロック別に研修会が催されます。内容は、山岳競技概論や競技規則、採点要項等の研修と登攀競技の審査と運営についてのグループ討議等ですが、関東ブロック(茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨)ではまだ期日、会場が決っておりません。期日は53年6月から54年2月までの間に行うことになっております。公認指導員の中から多数参加されることを期待しております。

第二回登攀技術研究会開催について

53年8月26日から27日までの二日間山梨県三ツ峠山(二七八M)において、第二回登攀技術研究会が開催されます。参加資格は各岳連より二名で7月31日までに申込みますが、希望者は事務局まで申出て下さい。希望者多数の場合は予選会を開きます。費用は一名につき五千円、交通費各自負担(宿泊費は日山協負担)。競技方法は個人のフリークライムにおいて決められた登攀ルートの完登タイム及びは事務局に問合せ下さい。

山の好きな男のセトモノ店

山の大井

県庁通り 前橋ビル 0272-21-1678(代)
卸部 前橋市間屋町 0272-51-1000(代)

自然に親しもう

夏山特売セール

期日 53年7月1日——7月31日

(有)山とスキーの店 石井

伊勢崎市中央町18番8号
TEL 0270-25-0272

五三年度事業計画決まる

岳連総会

六月二十五日午後、県民会館に於いて、五三年度岳連総会が開催された。当日の参加団体二十五参加者五十八名で、五三年度の事業及び決算報告と、五三年度の事業計画と予算案について審議された。

総会の始めに、浜名会長の挨拶があり、総会終了後は、懇親会が催され、中島副会長の首頭で岳連の発展を祈念し散会した。

浜名会長の挨拶
岳連も会員の皆さん方の努力で着実に発展してきており喜ばしいことである。今後共、会と会員相互の交流を計る核となって活躍されることを期待します。

議長選出
浜名会長を選出

一、五三年度事業報告
石井理事長
会員と各部門の皆さんの協力で事業計画のほとんどを実行出来たことを感謝申し上げます。部門別に活動報告を致します。

(一) 遭難防止救助訓練
遭難救助隊を中心とした救助訓練を行ない、救助技術の向上、隊員間チームワークなど効果が上る

四月 結団式 五月二十九日 一般及び新隊員の救助訓練
七月三日 十月三日 隊員の救助訓練を谷川岳で行なう。

二月四日～五日 中之条で隊員の研修会を実施し、三月十二日には冬山救助訓練を行なう。

全国救助訓練研修会(立山)に隊員を派遣した。

二、五三年度会計報告
吉田事務局長
当初予算に比べ、関係の補助金、参加費などを予算に組込んだため大巾な補正となった。

未収金についても大分改善され団体数としては減少した。

会計監査報告
書類上の監査を行なったが、すべて完備しており、正確であったことを報告します。

三、五三年度事業計画
石井理事長
事業計画としては、前年々みだが、五八国体の準備、ヒマラヤ登山遠征の実施、谷川岳清掃登山に取り組まなければならない。

四月十九日 理事会
会報第十四号発行

五月連休
谷川岳パトロール
二九日 一般救助訓練 妙義
新隊員救助訓練 榛名
六月 四日 春山技術講習 谷川
十日 国体予選会
二十五日 国体審判講習会
谷川岳清掃登山

七月十二日 理事会
会報第十五号発行

八月 二日 谷川岳山開き
二日 全国遭対協 高山市
二日 救助隊訓練 谷川
二日 国体ブロック予選
八月 六日 尾瀬美化運動
九月 十日 岩登り講習会 榛名

九月 二日 救急法講習会
二九日 ヒマラヤ登山隊出発
八月 六日 尾瀬美化運動
九月 十日 岩登り講習会 榛名

十月 第三十三回国体長野
第三十三回国体長野
十一月 実技講習会 鳴神山
十二月 ヒマラヤ登山隊帰国
冬山合宿検討会
一月 理事会
二月 会報第十七号発行
三月十一日 救助隊訓練
四月、五三年度予算案

昭和52年度収支決算書

収入の部

科 目	子 算 額	補 正	収入 済 額
繰 越 金	216,460円	0円	216,460円
会 費	444,000	△ 57,000	387,000
未 収 金	82,000	△ 21,000	61,000
交付金・補助金	409,000	454,560	863,560
寄 付 金	5,000	△ 5,000	0
雑 収 入	43,540	△ 18,585	24,955
計	1,200,000	352,975	1,552,975

支出の部

科 目	子 算 額	補 正	収入 済 額
事 業 費	960,000円	185,297円	1,145,297円
会 議 費	40,000	2,900	42,900
事 務 費	35,000	△ 10,230	24,770
旅 費	40,000	△ 37,200	2,800
負担 金	87,000	31,000	11,800
予 備 金	38,000	7,000	31,000
計	1,200,000	164,767	1,364,767

昭和53年度予算

収入の部

科 目	子 算 額	前年度予算額	比較増減
繰 越 金	188,208円	216,460円	△ 28,252円
会 費	444,000	444,000	0
未 収 金	85,000	82,000	3,000
交付金・補助金	1,007,000	409,000	598,000
寄 付 金	5,000	5,000	0
雑 収 入	20,792	43,540	△ 22,748
計	1,750,000	1,200,000	550,000

支出の部

科 目	子 算 額	前年度予算額	比較増減
事 業 費	1,435,000円	960,000円	475,000円
会 議 費	50,000	40,000	10,000
事 務 費	35,000	35,000	0
旅 費	40,000	40,000	0
負担 金	118,000	87,000	31,000
予 備 費	72,000	38,000	34,000
計	1,750,000	1,200,000	550,000

婚礼引出物卸価格にて奉仕致します
贈答品・記念品・引出物

株式会社 丸 興

岳連会員は特別価格にて御奉仕致します

高崎市上中居1382
TEL 0273-52-0970(代)

大型写真パネル・風景・撮影
あなたの山行のネガでパネルにしませんか。

須田フォート光芸

前橋市総社町植野225 - 22
TEL 0272-51-0206

第六回ヒマラヤ登山

実行委員会より

去る六月十四日、前橋市内、県体協会館に於て標記委員会が、浜名一雄実行委員長他30余名の出席を得て開催されました。

(1)総務 (2)装備 (3)食糧 (4)財政に渡り各担当者より報告され、進行状況は左記の通りです。

(1)総務 一企業五万円×54社による上毛新聞広告決定

申請中であつた県費補助金の決定

(2)装備 梱包進行中。酸素に関し

ては国産ならびにドイツ・フランス製を使用し、予算によつて多数の変

(3)食糧 六月初より各企業へ向

寄寄贈依頼書を発送済み

(4)財政 前回資金集めに販売した

ネパールバッグ・書籍及び映画会による収益金の

報告がありました。沢山の協力がありとうござ

いました。尚、未納金・残品の回収は六月中に行

ないです。

—遠征費予算案が計画書に

が現地(ネパール)で掛けることに決定されるなど、予算修正の必要が生じていますが、あくまでも予算内におき取り行なうこととなります。

以上の四項目が現在迄の進行状況であり、中でも県費四百万円の補助が得られた事は非常に喜ばしいことです。

次に登山隊への支援として前回引き続き、次の物品販売を行なっています。今回はタウラギリ一峰と年号のプリントされたマグカップです。前回に比べ安価(一コ四百円)であること、日用品と富士を往復した。

十三回目を迎えた本大会は、毎年参加者が増え、今年も顧問・生徒を合わせると、六五〇名をこえる参加者があり、幕営地の確保に頭を痛めるようになった。

子選については、各校四名ずつがバレーを組む・男子80kg・女子60kgの重裝備で、体力・歩行・チームワーク・裝備・事前研究・記録・計画書の提出・天気図の作成・ペーパーテストなど、多角的に審査が行われた、またコースの途中に目じるし(ポスト)をおき、その地点を地図上で確認させることにより、現在地の確認がうまく出来るかどうかとも審査の対象とした。男子は25校参加し、沼高・

友町・間屋町会館を予定しており、シエルバ等に掛ける保険

会場につきましては、前橋市大

井せともの店 〇二七二

登山隊の出発が七月二日(二

二日(先発隊)、七月二日(二

九日(本隊)の間にほぼ決定とな

りました。つきましては隊員への

岳界通信

県高校総体登山大会

本年度の県高校総体登山大会は、榛名山を会場に、五月十九(二

日)の二泊三日で行われました。洪

川女子高で開会式を行ったのち、

男女共・予選・一般組に分れて出

発、水沢寺から水沢山をこえて、

町営スケートセンターで一泊。二

日目は、予選は相馬山から、松之

沢峠・天目山・湖畔・さらにサブ

キャンプ場のコースで、一般は、二

つ岳をこえて、相馬山・松之沢峠・

キャンプ場、そして設営後、榛名

加し、少女・太女・吾妻・沼女・中之条・桐女の順となった。

一般組というのは、おもに一年

生・二年生が中心で、男女共人数

が多く、裝備・服装もまちまちで

あったが、基礎登山技術のマス

ターを心がけ、幸い大きな事故もな

く、元気に閉会式にのぞむことが

出来た。一日目の水沢山の登りは

かなり急登であつたが、四名を除

いて、予定通りの行動がとれた。普

段のトレーニングの成果が十分発

揮出来るかどうかが大切であり、

また他校のよい点を学ぶという態

度も必要である。こういう大きな

から下まで一気には降りしました。

最後に柴ノりの製作と搬送をやつ

て終了しました。参加者の中には

見ているだけでなかなか手を出さ

ない人もおりましたが、自分から

進んでやってみることが、自分の

ものとしてマスターする近道だと

思います。

谷川岳清掃登山

盛大に行なわれる

環境月間にちなむ岳連行事とし

て、今年度は「谷川岳」の清掃登

山を実施した。

F 南面二俣一谷川温泉

波川、倉瀬、中之条、太田、む

すび

岳連として、大規模な清掃登山

は、四十四年に実施して以来、中

断していましたが、地元岳連とし

て、環境月間中の行事として、美

化運動に協力することになり実施

したのですが、加盟団体の皆さん

の理解が得られ、年配の方々も含

め、予想以上に多数、参加され、

ゴミにまみれて汗を流して頂きま

した。

ランジャン氏来県

ネパールを訪問する日本人が、

例外なくお世話になる、バツタ・

チャリア・ランジャン氏が、六月二

十七日、都岳連の、高橋照氏と来

県し、前橋にて、浜名会長、石井

理事長等と、ダウラギリ登山隊合

同で会食し、最近のネパール情報

の交換、登山隊の準備接洽が行な

われました。

ランジャン氏は、七二年のダウ

ラギリIV峰登山隊以来、群馬の岳

人達がお世話になっている、知日

家で、日本に七年間留学し、日本

語ペラペラのエンジニアです。

最近では、日本からの観光客も

多くなったそうですが、それでも

年間八千人程度で、全体の八%と

か、アメリカ・ヨーロッパの人達

が圧倒的に多いそうです。

日本人は季節的に集中すること、

集団で行動するとかで、年率三十

%程の増加率であるとのこと、白

き神々の座を望むだけでも、行く

機会に恵まれたら、お世話になる

と便利でしょう。

編集後記

病みあがりの体にムチ打たれ、

海外登山を担当させて頂く事にな

りました。二年程海外研究会員と

共にしてきて、この七月下旬によ

うやく出発を迎えることになり、

これまでの皆の研究・訓練等、ス

ーパーマン的行動に拍手を送って

さし上げたいと思います。努力が

実を結んでD.I.の頂上をつかみと

れるように、

(諏訪ふさこ)